

平新報

陰曆昭和六年を送る

江 尻 生

舊曆を墨守するなど、昭に陥れ氣狂にするのである。和の日本人でない、笑ふ人もあろうが、警城地方は逃れようともかく、主として陰曆を守つて居る現代人である、そこにスピートが、走り、尖端が、労働争議の煙突男、嶺山争議の絶食主義、あれなんかも目に見えない、観念の動きの昭和七年こそ、我等の力して居る筆者なども、奮起して、スピートは能率特に階級闘争に關するだけである、その對策も亦たを以て明らな、美、く、住みよい、社會をたらしむるのだ。

手段としては、餘りに生やさしい事である、スピートと好一對をなす、その間に、新らしい希望と勇氣を抱くのだ、更生の元氣が、誠に多からうと存じます、何卒倍舊の御交誼を望みます、甚だ簡單では御座います、が御禮を兼ね着任の御挨拶まで、

郡山警察署長 敬具

猪狩 清

拜啓時下向寒の初愈々、御清程奉慶候陳者、小生、福島縣廳在任中は公私共、格別の御厚情を蒙り、殊に、改正度量衡法の普及に、關しては、一方ならぬ御援助を、忝ふし感銘能は、候處、今、回都合に依り、退官候に、就ては、尙將來も、不相變御交誼賜り、度實は、拜趨御挨拶、可申上之、處、出京を急ぎ、候爲、乍失禮、右寸楮を以て、御禮、芳々、御願申上、候、

福島市警根田 敬具

増田 義夫

謹啓時下、寒冷之候、尊堂、益々、御清程の、段、奉賀、候、扱、而、今、般、小生、出發に、際し、ては、御禮、別を、賜り、且、又、應々、御見送、り、被下、御厚志、の、段、誠、に、難有、奉、謝、候、本日、無事、左記へ、入、隊、仕、り、候、間、御

是非曲直の検討を要す

平町 西北、荒川生

六年は正に不景氣の獨り舞臺であつた、お負に失業と云ふ餘計な子役まで引具して人間世界を我物顔に跳梁した、遠慮會釋もありやしない、首をちよん斬られた青い失業者は寒氣と生活の脅威に震へてゐる、遂には失業洪水なる熱語すら新妓に第六十議會は勢頭に乗るの時、奇くも國政料理の重開の三面を横行した、氣の然議會解散が漸行され吾人責を荷ふものは宜しく判目早いものは不景氣の手を籠、國民は嫌惡なしに總選舉に一番驚天動地の更政大策を、早もて、自ら手を下、當面せしめらるゝに至つた、講して國民の活氣を鼓吹、剛き争議の政争の渦中に投られたる尊き參政の權利を、如して息の根を止めた者さ、此時に當り吾人は國家第一の國家の振興を計らねばなせらるゝ、事は國家國民の上、何に完全に行使し、以て天恩あつた、然も自分だけなら、義に立脚し與へられたる權、らぬ、時、徒に黨利黨略の上、勝手だが、不景氣も失業も、利義務を有意義に行使すべにのみ立脚し、金と權力を、來するものに非ず、實に百害、重大なる意志を決すべく、先辨へない、あどけない子供、きである、今や國難來に際會用し、權力を握れる政治家とあり、一利なき、離、劣事であつ、冷静に慎重に是非曲直を、にまで冷い、及が逼つた、し、密雲、暗濛として我國家の、金、權を握れる、政商とが、結託、る、即ち國を支配するものは、檢討すべき秋である。

音信交換

音信交換

何處とも暖かき寒中御同慶に奉存候二八會紀念寫眞御贈り被下、難有拜見仕候御懐かしき各位に、まのあたり、歡談致し居る、様、心地せられ、左右に、溢き、何回となく、拜見致し居、候、

郡山警察署長 敬具

猪狩 清

拜啓時下向寒の初愈々、御清程奉慶候陳者、小生、福島縣廳在任中は公私共、格別の御厚情を蒙り、殊に、改正度量衡法の普及に、關しては、一方ならぬ御援助を、忝ふし感銘能は、候處、今、回都合に依り、退官候に、就ては、尙將來も、不相變御交誼賜り、度實は、拜趨御挨拶、可申上之、處、出京を急ぎ、候爲、乍失禮、右寸楮を以て、御禮、芳々、御願申上、候、

福島市警根田 敬具

増田 義夫

謹啓時下、寒冷之候、尊堂、益々、御清程の、段、奉賀、候、扱、而、今、般、小生、出發に、際し、ては、御禮、別を、賜り、且、又、應々、御見送、り、被下、御厚志、の、段、誠、に、難有、奉、謝、候、本日、無事、左記へ、入、隊、仕、り、候、間、御

光線科

田中醫院

警城平町南町
電話二二九番

したるこの年も、今正に前に暮れんとして、一切の苦み、一切の悩み、一切の愛を包んで、昭和六年は過去の二字に消え去らうとして居る、さらば逝けよ、昭和六年

取敢御禮を御存の節各位に宜敷願上候

山形縣岡市最上町甲七二

遠藤 平太

冠省今般私事當署へ轉任に際しましては早速鄭重なる御祝詞を賜りまして厚く御禮申上、まします、は、今後諸兄の御指導と御援助とに俟つもの、が誠に多からうと存じます、何卒倍舊の御交誼を望みます、甚だ簡單では御座います、が御禮を兼ね着任の御挨拶まで、

郡山警察署長 敬具

猪狩 清

拜啓時下向寒の初愈々、御清程奉慶候陳者、小生、福島縣廳在任中は公私共、格別の御厚情を蒙り、殊に、改正度量衡法の普及に、關しては、一方ならぬ御援助を、忝ふし感銘能は、候處、今、回都合に依り、退官候に、就ては、尙將來も、不相變御交誼賜り、度實は、拜趨御挨拶、可申上之、處、出京を急ぎ、候爲、乍失禮、右寸楮を以て、御禮、芳々、御願申上、候、

福島市警根田 敬具

増田 義夫

謹啓時下、寒冷之候、尊堂、益々、御清程の、段、奉賀、候、扱、而、今、般、小生、出發に、際し、ては、御禮、別を、賜り、且、又、應々、御見送、り、被下、御厚志、の、段、誠、に、難有、奉、謝、候、本日、無事、左記へ、入、隊、仕、り、候、間、御

乍御休心被下、度先は不取敢御禮々々御報迄如斯御座候

仙臺兵衛四郎隊第九中隊
幹部候補生鈴木新右衛門 敬具

平町田町
電話五三二番

科、小兒科、皮膚科

藤田醫院

平町紺屋町
電話五〇七番

警城セメント代理店

西村屋藥舗

平町二丁目
長電話三番

混砂搗白米販賣禁止 (滋賀縣下)

山野邊無砂搗精米所

電話三一八番

度量衡販賣

液体空氣會社製

酸素含有量(百分中)
(東京工業試驗所證明)

吸入用酸素、酸素吸入器

罐體溫暖計開内藥局

電話四〇番

小作争議に就て

江尻 中

小作争議は地主小作の利害である、從來でも... 小作争議は地主小作の利害である、從來でも... 小作争議は地主小作の利害である、從來でも...

各郡の人口

Table with 2 columns: 郡名 (County Name) and 人口 (Population). Lists various counties and their respective populations.

各郡の縣稅負擔額

Table with 2 columns: 郡名 (County Name) and 縣稅負擔額 (County Tax Burden Amount). Lists counties and their tax burden amounts.

一二日市大奉仕. Advertisement for a two-day market with various goods and prices.

マルトモ書店. Advertisement for Marumoto Shoten, listing various books and stationery items.

マルトモ運動具店. Advertisement for Marumoto Sports Equipment Store, listing various sports gear and prices.

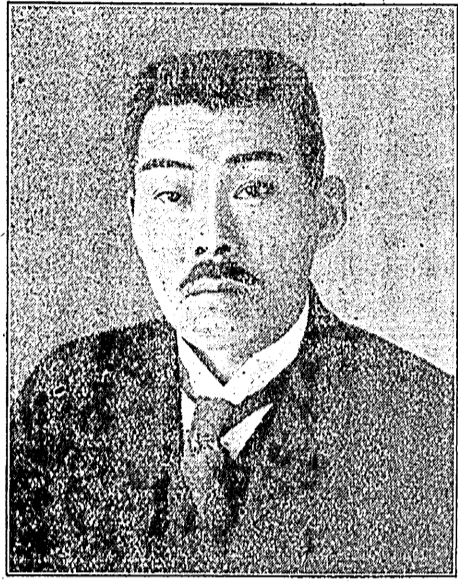
總選の闘ひは今や展開す!

第三區の立候補者は

民政、比佐、氏家、

政友、鈴木、佐藤の四名か

豫定の通り議会は果敢に... 政友會側は去る五年... 民政黨の比佐昌平氏... 氏家は石城の野崎氏... 氏家は石城の野崎氏... 氏家は石城の野崎氏...



本郡地盤をすく... 立候補者の影面



比佐昌平氏 鈴木辰三氏 氏家三郎氏

方佐藤庄太郎氏は先に相双... 政友會側は去る五年... 民政黨の比佐昌平氏... 氏家は石城の野崎氏...

は代議職は初めてだが政府... 政友會の政策は... 民政黨の政策は... 氏家は石城の野崎氏...

黨より頭数に於て負ける... 政友會の政策は... 民政黨の政策は... 氏家は石城の野崎氏...

一、石城地方に於て破産... 政友會の政策は... 民政黨の政策は... 氏家は石城の野崎氏...

防の功勞章、縣參事會... 政友會の政策は... 民政黨の政策は... 氏家は石城の野崎氏...

吉例舊正二日... 西村屋藥舖... 電話 三番

政友會側は去る五年... 民政黨の比佐昌平氏... 氏家は石城の野崎氏... 氏家は石城の野崎氏...

氏家は石城の野崎氏... 氏家は石城の野崎氏... 氏家は石城の野崎氏... 氏家は石城の野崎氏...

氏家は石城の野崎氏... 氏家は石城の野崎氏... 氏家は石城の野崎氏... 氏家は石城の野崎氏...

氏家は石城の野崎氏... 氏家は石城の野崎氏... 氏家は石城の野崎氏... 氏家は石城の野崎氏...

氏家は石城の野崎氏... 氏家は石城の野崎氏... 氏家は石城の野崎氏... 氏家は石城の野崎氏...

平町一丁目 坂本紙店 電話 十八番

平町二丁目 中野洋品店 電話 五三番

平町二丁目 西村屋藥舖 電話 三番

若し存命せば

代議士候補に

國難に當面して

荒精氏を俛ぶ

中尉の略歴

荒川中尉は精一、明治二十四年五月を以て福島縣平町に生まる。磐城中學校を卒業後陸軍士官學校に入學、二十三歳にして陸軍歩兵少尉に任官正八位に叙せられ仙臺歩兵第二十九聯隊附となり、後中尉に進級したが二十九歳の時東亞の時事を慨して軍職を退きて出京し、爾來海外政策の研究に身を委ね主として滿蒙問題に全力を傾注して居た。大正十一年南洋に遊んで滯留約一ヶ年、南洋各地の民情を視察して歸朝、その後城南莊同人として、政教社に關係し専ら日本主義の鼓吹に努め、又素志として政界革新の爲めに盡瘁し、興國義會、倒閣維新聯盟、對露同志會等の幹部であつたが、其の火の如き熱性は自然同志間にも重きをなして居た。

中尉の上奏文

荒川中尉は當今の時局から中尉も藏相の爆彈事件加々昏迷紛糾し、綱紀は地に墮ち、奸に非らずやとの見込を以て悪人憎まず誦許世怪しまさるる五月十三日朝野視察が、日附を以て、請願令に基き、市内外左の如き上奏文を呈呈した一齊に敢行した、安政の大た、荒川中尉の告別式は、(上略)並に濱口内閣總辭職に比すべき右傾議員當年五歳の嗣子見一君を喪職をなすや組閣大命の隆大檢罪の際、寺田稻次郎、主に同志友人相集りて五月

鈴木勇、下澤秀夫、松林亮二十七日に、四谷區南寺町赤尾敏、津久井龍雄諸氏の本性寺に於て佛式を以て葬各團首腦部三十余名と共に、曾正吉田勝選師導師警視廳に引致の上各拘留二となりて讀經後政教社代表十九日に處せられたのであ、五百木良三氏、東亞聯盟代表が、その際何にも知らぬ表小田山田南氏、對露同志妻子迄拘引された事と、拘會代表西田干穂氏、興國義留中軍人として恐び難き會代表中川良長男其他同志辱と苛酷なる取扱ひを受け友人等の熱烈悲壯なる弔辭たる事を甚だしく憤慨してあり、次いで一般燒香に移拘留中に數度の憤死を企てたが、當日會葬者は、中尉遺骸を遂ぐ、其後自宅に在りて靜養中であつた中尉は、二十二日の午前六時頃家人の隙を窺つて化粧室に入り鏡臺を前に正座し剃刀を以て咽喉部及下腹部の二箇所を正式に掻き切つて覺悟の自殺を企てた。丁度居合はした友義派約千名に達した、早速附近の荏原病院に電話をかけた、院長其他の出張をつつ同志の結束はいよいよ乞ふて應急手當を施し、爾後、一人の荒川の死は反來自宅に於て手厚く加療をつつ百人の荒川を生んだ受け、殊に同志等の真心か「昭和六年六月號勤王より」なる輸血も三度行つたが其効なく、遂に二十五日の午前三時二十分、小山田劍南、實川時次郎、工藤鐵三郎、鈴木勇、齋藤源内、佐藤慶治郎、皆川參陸、佐藤良信、奥川二郎、菊地義郎、島山孝太郎、中川良長男等の同志友人十數名に護られつゝ永眠した。

悲壯なる中尉の告別式、憤死して護國の鬼となつた、荒川中尉の告別式は、當年五歳の嗣子見一君を喪主に同志友人相集りて五月

音信交換

拜啓 小生今般入營に就ては種々御配慮を蒙り殊に出發の際には御多忙中にも不拘御見送被下且御鄭重なる御饗別を賜はり誠に難有御禮申上候御蔭様を以て途中無事本日左記部隊へ入營致し候間乍他事御安心被成下度候先は不取敢御禮旁御案内迄如此に御座候 敬具
仙臺歩兵第四聯隊第一中隊 幹部候補生新妻正男

吉例舊正月二日
景品付初賣出し
平町二丁目
荒物商 大 一 屋
電話 一三番

吉例舊正月二日三日
景品付大賣出し
平町四丁目
伊勢屋商店
電話 四十五番

吉例初賣出し 景品進呈
平町五丁目角
くすり
化粧品
体温計
山野邊藥局

吉例景品付大賣出し
平三丁目
やかな
店服洋

久釜屋の發賣!

舊正月二日午前二時より午後五時迄

- 金拾圓
- 金貳拾圓
- 金參拾圓 當日限り特に發賣!
- 金五拾圓 何卒御利用下さいませ
- 金壹百圓

久釜屋商店

電話 九四九番

奮勵努力の

混雑中 時間と 御手数 を省く